事業報告書

１．　法人の概要

(1)基本情報
①法人の名称
学校法人白峰学園

②主たる事務所の住所、電話番号、ＦＡＸ番号、ホームページアドレス等
横浜市港南区港南台４－４－５、045-833-7100、045-832-7246、http://www.yokotan.ac.jp/

(2)建学の精神
建学の精神「愛と奉仕」と教育理念
クリスチャンであった平野恒により創立された本学は、『キリスト教の「愛と奉仕」を精神の礎として社会に貢献する人材を育成する』ことを建学の精神としています。
この建学の精神に則り、保育科単科の本学では、『キリスト教の「愛と奉仕」の精神を育む人間教育、教養教育によって、個々の人間性をより豊かなものとし、「保育者養成の道ひとすじに」、児童の福祉と幼児教育に関する専門的知識と実践による技術を教育することを通じて、子どもたちの「豊かな育ち」を支えることができる、「愛」に満ち、「人間性」と「実践力」に優れた、さらに「自己成長力」を備えた保育者を育てる』ことを教育理念・教育目標としています。

(3)学校法人の沿革
1940年12月　平野恒が横浜保姆学院を創立し、幼児教育に携わる幼稚園、保育所の保母養成所として発足。
1945年　5月　戦災にあい休校。
1947年　4月　仮校舎にて再開。
1948年　5月　横浜市南区平楽に校舎を新築。
1948年12月　児童福祉法に基づく厚生大臣指定の保母養成校となり神奈川県の委託校になる。
1949年　4月　横浜保育専門学院と改称。
1962年　9月　横浜市南区中村町4丁目に移転。
1966年　1月　学校法人白峰学園設立。横浜女子短期大学設置認可。
1970年　4月　横浜市磯子区洋光台3丁目に横浜女子短期大学附属幼稚園開設。
1976年　7月　横浜市港南区港南台9丁目に運動場開設。
1979年　4月　横浜市港南区港南台4丁目に新校舎を建設し移転。
1980年　3月　体育館落成。
1983年　3月　講堂落成。白峰学園横浜女子短期大学保育センター開設。
1987年10月　新図書館落成。
1996年10月　横浜女子短期大学55周年記念式典挙行。
1998年　1月　創立者・平野恒逝去。
1998年　2月　平野建次学長就任。
2019年　1月　佐藤寛之学長就任。

(4)設置する学校・学部・学科等
保育科

(5)学校・学部・学科等の学生数の状況

（２０２１年５月１日現在）

学校名		入学定員	入学者数	収容定員	現員数
横浜女子短期大学	保育科	２００名	７４名	４００名	１９４名

(6)収容定員充足率

（毎年度５月１日現在）

学校名	２０２１年度	２０２０年度	２０１９年度	２０１８年度	２０１７年度
横浜女子短期大学	４９％	５２％	５０％	５８％	８２％

(7)役員の概要

理事　　定員５～７名

氏　名	就任年月日	常勤・非常勤
平野　成輔	2019年1月18日	常勤
三田村　鳳治	1984年5月31日	非常勤
篠崎　芳明	2004年5月31日	非常勤
中川　緑	2006年5月31日	非常勤
松川　和義	2018年5月31日	非常勤
佐藤　寛之	2019年1月18日	常勤

監事　定員　２名

氏　名	就任年月日	常勤・非常勤
鴇田　要一	2004年5月31日	非常勤
舩田　松代	2020年5月31日	非常勤

(8)評議員　　定員１４～１７名

氏　名	就任年月日	常勤・非常勤
平野　成輔	1997年5月31日	常勤
三田村　鳳治	1984年5月31日	非常勤
戸田　節子	1996年5月31日	非常勤
兼子　盾夫	1996年5月31日	非常勤
坂井　章子	1998年5月31日	非常勤
佐藤　寛之	2002年5月31日	常勤
篠崎　芳明	2004年5月31日	非常勤
中川　緑	2006年5月31日	非常勤
岡田　栄一	2006年5月31日	非常勤
柳川　昌恵	2016年5月31日	非常勤
岡本　眞幸	2018年4月1日	常勤
松川　和義	2018年5月31日	非常勤
武田　敦子	2019年5月31日	常勤
石田　みどり	2020年5月31日	非常勤

(9)教職員の概要

短期大学　　本務教職員２７名・平均年齢５４．８歳
　　兼務教職員３０名・平均年齢５２．５歳
附属幼稚園　　本務教職員　７名・平均年齢３２．３歳
　　兼務教職員　５名・平均年齢５１．２歳

(10)その他

系列校の状況

・横浜女子短期大学附属幼稚園　　所在地　横浜市磯子区洋光台３－３－３０

２．事業の概要

(1)主な教育・研究の概要

・「学習成果」、「卒業認定・学位授与の方針」、「教育課程の編成・実施の方針」、「入学者の受け入れ方針」

学習成果：「本学保育科の２年間の学びで獲得可能なもの」

◇ 育まれる資質・能力

Ⅰ．人としての基本的資質・能力

Ⅰ-1　人としての基礎的資質

①　人を愛する心

②　奉仕の心

③　自尊・自律の心

Ⅰ-2　社会人としての基礎力

①　知識・技能とそれを活かす思考力

②　人と連携・協働する力

③　主体的に学びに向かう力

Ⅱ．保育者となるために必要な基礎的資質・能力

Ⅱ-①　教育愛・使命感

Ⅱ-②　保育者としての社会的スキル

Ⅱ-③　乳幼児の理解とクラス・グループの運営力

Ⅱ-④保育内容とその指導力

◇ 認証される成果

所定の単位を修得し、以上の資質・能力の基礎を身につけることにより得られるもの

● 短期大学士（保育学）の学位取得

● 保育士証・幼稚園教諭二種免許状の取得

卒業認定・学位授与の方針：ディプロマ・ポリシー

本学保育科で２年以上（４年以内）学修し、学則に定める所定の単位を修得し、上記「学習成果」として「育まれる資質・能力」の基礎が身についた者に「短期大学士（保育学)」の学位を授与します。あわせて、必要な単位を修得し、特に学習成果の「保育者となるために必要な基礎的資質・能力」を身につけることにより、保育士証と幼稚園教諭二種免許状を取得することができます。

教育課程の編成・実施の方針：カリキュラム・ポリシー

学習成果として「育まれる資質・能力」の基礎を広く多面的に育成するため、学則の規定により所定の単位数を割り当てた教科目を、大きく「教養科目」と「専門教育科目」の２領域に分けて設置しています。

◆「教養科目」は、主として、学習成果として「育まれる資質・能力」のうち、特に「人としての基本的資質・能力」の育成に資する教科目です。

なお、本学独自の科目として、建学の精神である「愛と奉仕」の精神を根本から説き伝える「キリスト教の精神」Ⅰ・Ⅱ（１年次・２年次通年)、並びに、本学保育科の全教科目の学びの基礎となり、きめ細かな学習支援やキャリア支援を行う、少人数制・ゼミ科目の「教養演習」（１年次通年)、「保育総合演習」（２年次通年）を設置しています。

◆「専門教育科目」は、主として、学習成果として「育まれる資質・能力」のうち、特に「保育者となるために必要な基礎的資質・能力」の育成に資する教科目です。

なお、本学では、保育実践の基礎となる音楽表現の基礎技能を育てる「保育環境構成技術(音

楽)」Ⅰ・Ⅱや、グループでの保育表現の演習活動を展開する「保育内容研究」を設置しています。また、保育士養成科目の「保育内容の理解と方法」に関する教科目においては、「子どもの生活と遊び」Ⅰ～Ⅲを設置しています。

さらに、「保育・教職実践演習(幼稚園)」に関しては、全専任教員（現場経験者を含む）と現場に立つ保育者の指導により、学生各自が今までの保育に関する学びを振り返りつつ、自分の学びを全面的に見直し、深化させ、実践力を高められるよう、学びの統合・総合化が図れるカリキュラム構成としています。

◆なお、以上の所定の教科目の履修に加えて、２年間の行事、日常生活、課外活動の全般を通じて、学習成果として「育まれる資質・能力」の基礎を育む支援をしていくことも、本学の広義の教育課程と位置づけています。

入学者の受け入れ方針：アドミッション・ポリシー

学習成果として「育まれる資質・能力」にある通り、人を大切にし、社会に寄与する「愛と奉仕」の精神を基盤とした教育愛や使命感・責任感のある保育者を志し、本学保育科での学修を達成するために必要な基礎的知識・技能とそれを活用しうる思考力を備え、生涯にわたって主体的に多様な人々と協働して学び続けていく諸特性を備えた人物を求めています。

「本学が求める人物像」は

●保育者をめざす強い目的意識をもっている
●他者を理解し思いやる心をもっている
●自ら主体的に学びに向かう力をもっている
●保育者にふさわしい以下のような人柄･能力をもっている
●明朗さ　●社会性　●協調性　●奉仕の心
●マナーを含めた社会常識　●自己表現力　●国語力(特に文章表現力)

このように、心豊かで、社会性のある、コミュニケーション能力に優れた人に、ぜひ入学してもらいたいと願っています。

具体的に高校までに習得すべき内容等として、保育・幼児教育に携わる保育者になるということから当たり前の ことと思いますが、

●コミュニケーションの基本である「挨拶」ができること
●社会的規範・ルールを順守することができるといったことも含めた「社会常識」を有していること
●自律的に心身の健康を維持する生活をおくっていること
を挙げておきます。

将来保育者として、子どもと関わるためにできるだけたくさんの知的な引き出しを用意しておくことも大切です。

そのために、本学に入学してからも多くのことを学びますが、高校での学習の段階においても、3 年間を通じて、特定の教科に限定することなく、幅広く、全教科に渡って、しっかり学習に取り組んでいることが大切になります。

また、保育士資格や幼稚園教諭二種免許状の取得要件となる科目を全て学習していく必要があることからも、苦手な科目にも取り組もうとする基本的な学習姿勢、学習意欲を持っていることが重要になります。

そして、「本学が求める人物像」の項目にも掲げましたが、「国語力」は保育者にとって特に大切な能力です。

保育の現場では、日誌など種々の記録・書類を作成し、連絡帳を書き、クラス便り等を発行することが日常的仕事に含まれていますし、実習でも日誌記録作成等は必須です。

このようなことから、現代国語、現代文に関連する科目の習熟度は概ね平均的水準以上であることが要件となります。

（余裕がある人は、入学までに、漢字検定の少なくとも準 2 級、できれば 2 級の取得が望ましいでしょう。）

・研究活動について
本学は、保育科単科の短期大学であり、先に記載した、「建学の精神」の実現と、各学生が「学習成果」を獲得できるように、教育に関する３つの方針を踏まえ、本学の教員には、研究費の支給を行ない、保育学、保育実践、保育技術、保育者養成教育に関連する研究分野を中心に研究を進めることを希求し、研究・紀要編集委員会を組織して、２０２１年度も、学内研究発表会の開催、横浜女子短期大学研究紀要を刊行した。
本学教職員は、研究会を組織し、協同での研究活動にも取り組み、本学研究紀要への投稿の他、保育学会を中心に、研究発表活動、学会誌等への研究論文の発表等を行なった。

(2) 中期的な計画（教学･人事・施設・財務等）及び事業計画の進捗・達成状況
◆中期的な計画
2018 年 6 月に策定した中長期ビジョン（計画期間 2019 年度～2022 年度）の第 3 年度となる 2021 年度は、短期大学の教学面で 2019 年度から開始して定着させた少人数のゼミ制度（1 年次・教養演習、2 年次・保育総合演習）をさらに充実させるなど、在学生の満足度を向上させるための取り組みを事業計画に基づき着実に推進した。新型コロナウイルス感染拡大問題の影響が長期化する中、感染症対策の徹底を図りながら、保育者養成校として学生の学修機会を確保するべく適切に対応している。
施設設備については、良好な教育環境と安全性を維持するため、保守点検等を踏まえ、毎年度作成する単年度の事業計画に沿った各種の更新・改修工事や緊急対応工事等を行っている。2021 年度は短期大学で講堂非常用自家発電設備更新工事（前年度 3 月中旬着工)、図書館の天井雨漏り改修工事、本館玄関ロビー照明取り替え工事、体育館換気扇取り替え工事など、附属幼稚園で大型園庭遊具の老朽化に伴う新遊具整備などを実施した。
支出超過の状態にある財務の改善に向け大きな要素を占める短期大学部門の学生数は減少を続けている。2022 年度の在学生数は総定員に対し 4 割に満たないところまで落ち込み、学生生徒等納付金収入の大幅な減少を余儀なくされている。2022 年度に実施する学生募集（2023 年度入学生募集）では、入学金の減額や入試方法の一部見直しなどを行う。合格者の経済的負担を軽減するとともに、総合型選抜で受験生への対応を前年度より更にきめ細かくし、学校推薦入試の中に新たな枠組みを設けるなどの施策を講じ、志願者を増やし、激減した学生数の回復を図る。
一方、本学卒業生も含めた現職の幼稚園教諭のニーズを踏まえ、2019 年度から開始した幼稚園教諭免許更新講習は 2021 年度も受講者数を伸ばし 2 年連続で前年度を上回った。2021 年度の受講者は延べ 697 名となり、前年度比 155 名増加した。ただ、教員職員免許法の改正で免許更新制度が 2022 年度内に廃止となるのに伴い、幼稚園教諭免許更新講習の受講料収入もなくなり、2022 年度の付随事業収入は減少する見通し。
支出については管理経費を極力抑える努力を継続するのと併せ、人事面で全体的に年齢構成が高い状態にある教職員の若返りを図り、法人全体として総支出に占める割合の高い人件費の抑制につなげることを基本方針とし取り組んでいる。2021 年度は附属幼稚園で幼稚園教諭 1 名（在職 12 年）が自己都合で退職し、新卒 1 名を採用（2022 年 4 月 1 日付）した。2022 年度は 3 月末に短期大学の専任教員 1 名が定年退職する。

◆２０２１年度における事業の進捗・達成状況
２０２１年度も、本学の独自性を堅持しつつ、２０１６（平成２８）年度の短期大基準協会（現・大学・短期大学基準協会）による評価結果も参考にし、理事会、評議員会、監事よりの提言も受けて、教職員一丸となって学生募集対策、教育事業等の改善を進めることとし、年度の開始にあたっては、教職員の間で、情報、危機意識の共有、意思統一、協力態勢の強化を図るために、理事長、学長による今後の本学の取り組みに関する説明会、全体会を開催し、教職員の結束、協力の呼びかけを行なった（２０１９年度に開始し、以降定例化させた)。

２０２１年度の事業については、日本において２０２０年２月より続いている新型コロナウイルス感染症の感染拡大に対して、感染のメカニズムを踏まえた感染防止対策の徹底、ワクチン接種の開始と 2 回目の接種、治療薬開発が進む中、アルファ株、デルタ株、オミクロン株などウイルスの変異進行に伴い、3 回の感染拡大の大波（第４波：4 月～7 月、第５波：8 月～11 月、第６波：1 月～）が繰り返す中で実施された。１年間一貫して、学生、教職員及びその家族の健康・安全・生命を守ることを第一原則とし、入学式をはじめ、「行事」は、感染拡大防止の観点から参加者の制限や、内容も制限変更して実施し、「美しき躍動」等、一部の学事については事業計画外として扱い、休止、中止としたものあった。また、学生募集活動にも大きな影響を与えることとなった。教育事業も学生募集も大幅な制約を設けて実施せざるを得ない１年間であった（事業報告書「２．事業の概要　(3)その他　学事の実施等に関する概要等」、「事業の骨格・概要の実施報告と達成状況」を参照のこと）。

学生募集活動については、緊急事態宣言、まん延防止等重点措置の発出及び新型コロナウイルス感染拡大の状況等を考慮し、5 月の第 2 回入試相談会については開催中止。2 月のオープンキャンパスはＷｅｂ開催に変更対応した。それ以外のオープンキャンパス、入試相談会等は、対面で実施したが、感染防止対策上、参加者の完全予約、人数制限（定員制）を設けての実施であった。２０２０年度に比べて条件を緩和しての対面実施ではあったが、トータルとして、「人と人の触れ合い」を基盤にする「保育」の仕事の素晴らしさと、その「人と人の触れ合い」が、本学の教育、学生生活の大きな魅力であることを、「多く」の志願者に実感してもらえるには、制約が多かったと言わざるを得ないところである。なお、個別リストにある以外にも、高校、志願者の希望等に応じて、Ｗｅｂ・リモート、対面による学生募集活動も臨時的に実施している。

学生募集活動の成果、入学者確保に関する２０２１年度の事業の達成状況についてだが、過去（過去の結果については、事業報告書の「１．法人の概要（6）収容定員充足率」の数値に反映されているので参照のこと）に遡るが、２０１９年度は、入学者数の回復を目指して学生募集対策を実施展開した結果、指定校推薦入試を中心に一定程度の成果を挙げ、２０１８年度にくらべ約３０名分の入学者数を回復できた。しかし、２０２０年度、そして、今期２０２１年度と、中期計画達成に向け、入学者数の回復・増加を目指すために学生募集対策を策定して取り組んだが、総合型選抜入試については、２０１９年度まで実施してきた、ＡＯ入試に比し、その名称が示す通り、多面的な適性評価の実施を目指す入試として、学力検査必須化も含め、評価指標を多面化する必要があり、志願者の準備負担増になり、志願者が受験選択を忌避する要因になった。
加えて、コロナ禍の中、高校での進路指導・支援が十分に実施されない年度早期の時期に、大学の入試制度改革に影響を受けない専門学校による学生募集活動により、入学を決定してしまう流れが生じ、本学の総合型選抜入試の入学者数は旧ＡＯ入試に比べて大幅に減少する結果となった。２０２１年度の本学の実施した対策では、この流れを阻止することはできなかった。
学校推薦型選抜入試に関しては、コロナ禍が、志願者の地元への進学志向として作用したことが大きく、この２年間、地域特別型選抜入試は実績を残せなかったが、指定校型選抜入試に関しては、多重の対策の効果により、コロナ禍の影響を受けても、なんとか減少を最小限に止めた。
結果として、２０２１年度の事業計画で示した学生募集の目標を大幅に下回り、学生数に関して、２０１９年度当初を下回る極めて危機的な状況となった。

次に、２０２１年度の教育事業についてだが、２０２１年度は、入学者数の回復へ繋げるための根本的課題という認識で、時代の求めに対応した教育内容の実現、入学者の特性に沿い、ニーズに対応できる短期大学教育を実現していくために、よりきめ細かい教育と、行事の単位化、キャリア教育及びキャリア支援の単位化を実現する『新教育課程』移行３年目に当たった。
２０２０１度は、上述したような感染状況の中で、教育実習、保育実習ともに、計画に沿いつつ、感染状況に応じて、日程調整を行い、できる限りの感染防止対策を行っての実施となった。
授業については、新型コロナウイルス感染症対策の観点から、２０２０年度後期と同じように、１、２学年を分離し分散登校となるように、原則として午前と午後の入替え、感染リスクが高い会食・食事を回避するようにした上、原則対面で実施し、授業時間の不足分を遠隔学習で補う方式で実施した。実技・実習に係る科目については、原則全面対面授業での実施となるようにした。

地域も含めた対外的な貢献等に関しても、このコロナ禍において、現任保育士を対象とする保育センターの研修については、受講者の希望もあり、対面の研修を再開させたが、感染拡大防止の観点から、昼食を挟まない午後開催、そして講座単位で参加人数を大幅に制限しての実施となった。一部の研修に関しては Zoom を使用したリモート方式で実施した。３年度目となった幼稚園教諭免許状の更新講習については、講習を対面あるいは通信教育の選択方式で実施した。体操教室に関しては、参加応募者の年齢（高齢化）を考慮して、中止とした。施設の貸出等も前期は原則中止としたが、後期に入り、姉妹法人の白峰保育園などの施設利用希望に応じるようにした。

保育人材の確保に向けての、横浜市、神奈川県行政、横浜市の幼稚園団体、保育園団体、神奈川県の保育園団体との連携に関しては、２０２０年度に引き続き足踏みのままの１年間であった。

２０２０－２０２１年度、本学は神奈川県私立短期大学協会会長校（輪番制）を担当した。それに伴い、学長は、関東私立短期大学協会理事、日本私立短期大学協会理事の業務にも従事した。

(3)その他

学事の実施等に関する概要等

《横浜女子短期大学》

月	日（曜日）	学年	事　　項
２０２１年 ４月	１日（木）	1	入学式【入学生と教職員等に出席者を制限して実施】
		2	オリエンテーション（午後）
	２日（金）	1	オリエンテーション（午後）
		2	授業開始　※１・２学年、午前・午後で交替制
	５日（月）	1	オリエンテーション（午前）
	６日（火）	1	修養会【開催】・ギデオン聖書贈呈 ギデオン聖書贈呈式・新入生歓迎会【見送り】
	７日（水）	1	授業開始　※１・２学年、午前・午後で交替制
	１２日（月）	1・2	健康診断
	１５日（木）～	2	保育実習Ⅰ（施設）開始
５月	17日(月)～6月1日(火)	1	１日実習（5/17.18.21.31・6/1）５日間
		1・2	美しき躍動リハーサル【実施せず】
		1・2	第３６回「美しき躍動」　共催：協力会 於：横浜文化体育館　幼稚園･保育園児、保護者等参加 【継続的事業として当年度計画外。未実施】
６月	７日(月)～25日(金)	2	教育実習（実習指定園に配属･１５日間）
	９日(水)・10日(木)	1	施設見学【見送り】
７月	２６日（月）	1・2	終業集会
８月	５日（木）	1・2	定期試験
	6日(金)～９月23日(木)	1・2	夏季休業
	２４日(火)	1・2	おもちゃインストラクター養成講座
	26日(木)・27日(金)	2	実習オリエンテーション
	30日(月)・31日(火)	1	実習オリエンテーション
９月	１日(水)～22日(水)	2	保育実習Ⅱ・保育実習Ⅲ（予備日含む）
	６日(月)～22日(水)	1	教育実習（１年次）（予備日含む）
	２４日（金）	1・2	後期始業集会・前期臨時試験
	27日(月)～30日(木)	1・2	空き時間に前期臨時試験
	28日(火)～30日(木)	1	秋季特別研修
	28日(火)～30日(木)	2	特別研修
１０月	１日（金）	1・2	秋季特別研修・特別研修『プーク公演』
	２５日（月）	1	「保育士を志す学生の集い」動画研修（教養演習） （県保育士養成施設協会DVD作成）

		1・2	運動会【継続的事業として当年度計画外。未実施】
１２月	４日（土）	2	「保育の日」【中止】
		1	保育まつり【継続的事業として当年度計画外。未実施】
	１５日（水）	1	附属幼稚園クリスマス会（於：本学講堂） 【１学年不参加】
	２２日（水）	1・2	クリスマス集会
１２月２３日（木）～１月５日（水）		1・2	冬季休業
２０２２年 1月	６日（木）	1・2	新年集会
	１３日（木）	1・2	保育内容研究発表会【白峰保育園のみ参加･他園DVD】
	２４日（月）	1・2	実習報告会
2月	４日(金)・７日(月)	1・2	定期試験
	７日(月)・８日(火)	2	乳幼児応急手当認定資格
	８日（火）	1	実習オリエンテーション
	１０日（木）	2	食育インストラクター集中講座
	14日(月)～3月3日(木)	1	保育実習Ⅰ（保育園）（県内保育所に配属・１２日間） （予備日含む）
	17日(木)・18日(金)	2	定期試験結果配付・手続
	21日(月)・22日(火)	2	臨時試験
	２２日（火）	2	ピアノ臨時試験
3月	11日(金)・14日(月)	1	定期試験結果配付・手続
	１４日（月）	1・2	卒業式リハーサル【実施せず】
	１５日（火）	2	卒業式【卒業生・家族１名、教職員等に出席者を制限して実施】
	１６日（水）	2	卒業を祝う会【実施せず】
	17日(木)・18日(金)	1	臨時試験
	19日(土)～30日(水)	1	春季休業
	２３日（水）	新１	入学生連絡説明会
	３１日（木）	新２	次年度進級オリエンテーション

《実習に関する連絡会議の開催》

１１月１６日（火）　２学年配属の幼稚園に対する教育実習連絡懇談会（学内で開催）
１１月１７日（水）　２学年配属の児童福祉施設に対する保育実習連絡懇談会（学内で開催）

《学生募集対策》

１）学生募集要項、大学案内の発行
２）各種進学説明会への担当者派遣
　イ．神奈川県私立短期大学協会主催「県内公私立高等学校進学担当者との進学懇談会」
　ロ．神奈川県私立短期大学協会主催「高校生と保護者のための進学相談会」
　ハ．㈱さんぽう等企画会社の進学説明会（県内高校会場を含む）
３）受験情報誌等に広告を掲載

４）オープンキャンパス・入試相談会・入試個別相談会

２０２１年	４月１０日（土）	第１回入試相談会（10:00～12:00）
	４月２５日（日）	第１回オープンキャンパス（10:00～13:00）
	５月　８日（土）	第２回入試相談会（10:00～12:00）※中止
	５月２３日（日）	第２回オープンキャンパス（10:00～13:00）
	６月　５日（土）	第３回入試相談会（10:00～12:00）
	６月 15 日(火)～18 日(金)	入試個別相談会（15:00～18:00）
	６月２７日（日）	第３回オープンキャンパス（10:00～13:00）
	７月　３日（土）	第４回入試相談会（10:00～12:00）
	７月１７日（土）	第４回オープンキャンパス (10:00～12:00 高校 1･2 年／13:00～16:00 高校 3 年対象)
	７月 27 日(火)～30 日(金)	入試個別相談会（15:00～18:00）
	８月　６日（金）	第５回オープンキャンパス (10:00～12:00 高校 1･2 年／13:00～16:00 高校 3 年対象)

	８月２２日（日）	第６回オープンキャンパス (10:00～12:00 高校 1･2 年／13:00～16:00 高校 3 年対象)
	８月 26 日(木)～31 日(火)	入試個別相談会（15:00～18:00）土日除く
	９月　４日（土）	第５回入試相談会（10:00～12:00）
	９月 14 日(火)～17 日(金)	入試個別相談会（15:00～18:00）
	９月２３日（木祝）	第７回オープンキャンパス (10:00～12:00 高校 1･2 年／13:00～16:00 高校 3 年対象)
	１０月 5 日(火)～ 8(金)	入試個別相談会（15:00～18:00）
	１０月１６日（土）	第６回入試相談会（10:00～12:00）
	１０月２４日（日）	第８回オープンキャンパス（10:00～13:00）
	１１月 9 日(火)～12 日(金)	入試個別相談会（15:00～18:00）
	１１月２０日（土）	第７回入試相談会（10:00～12:00）
	１２月 7 日(火)～10 日(金)	入試個別相談会（15:00～18:00）
	１２月１８日（土）	第９回オープンキャンパス（10:00～13:00）
	１２月２４日（金）	第８回入試相談会（10:00～12:00）
２０２２年	１月　７日（金）	第９回入試相談会（10:00～12:00）
	１月 18 日(火)～21 日(金)	入試個別相談会（15:00～18:00）
	２月　8 日(火)･9 日(水)	入試個別相談会（15:00～18:00）
	２月１１日（金祝）	第１０回オープンキャンパス（10:00～13:00） ※Web 開催に変更、時間も短縮
	３月２６日（土）	第１１回オープンキャンパス（10:00～13:00）

《入学試験》

２０２１年	９月１２日（日）	総合型選抜入試Ⅰ期
	１０月　３日（日）	総合型選抜入試Ⅱ期
	１１月　７日（日）	指定校型選抜入試・公募型選抜入試Ⅰ期・ 地域特別型選抜Ⅰ期
	１２月　５日（日）	公募型選抜入試Ⅱ期・地域特別型選抜Ⅱ期・ 社会人入試Ⅰ期・総合型選抜入試Ⅲ期 (入学前教育プログラムを午後に開催)
２０２２年	１月１６日（日）	公募型選抜入試Ⅲ期・地域特別型選抜Ⅲ期・ 社会人入試Ⅱ期・総合型選抜入試Ⅳ期 (入学前教育プログラム)【中止】
	２月　６日（日）	一般選抜入試Ⅰ期
	２月２８日（月）	一般選抜入試Ⅱ期

《横浜女子短期大学保育センター事業》

神奈川県、横浜市、川崎市、相模原市、横須賀市からの補助および横浜女子短期大学負担金による研修・研究事業【一部の研修をオンライン(zoom)で開催】

《教員免許状更新講習》

必修領域講習６時間・選択必修領域講習６時間・選択領域講習３６時間を７～８月の８日間で開催【対面式と通信教育から選択】

《その他の事業》

１）講演会等、協力会・同窓会との共催による文化事業の開催【中止】

２）体操教室

対象：地域の一般社会人　於：本学体育館

毎週火曜日午前中、年間３６回。【中止】

《施設整備事業》

非常用自家発電設備更新工事

ラウンジ西面サッシ・床改修工事

屋上防水工事(図書館)

漏水・排水関係改修工事（本館ﾄｲﾚ、玄関前等）

空調・換気扇等改修工事（本館ﾄｲﾚ、体育館、研究室）

玄関照明取替工事

学生ﾄｲﾚ壁面ｸﾗｯｸ修理

《横浜女子短期大学附属幼稚園》

《園児在籍状況》

	当初在籍数			期末在籍数			附　記	
	男　児	女　児	計	男　児	女　児	計		
満３歳児				５	４	９	入園　９名	
年少組	５	５	１０	６	５	１１	入園１１名	
年中組	１０	９	１９	１１	１０	２１	入園　３名	
年長組	１５	１５	３０	１５	１４	２９	入園　０名	
計	３０	２９	５９	３７	３３	７０	途中入園含む	

＊ 新入園児　２３名（満３歳　９名・年少児　１１名・年中児　３名）

《職員構成・クラス編成》

園　長 1名　・ 教　諭 6名		
満３歳児	１ クラス	教　諭　１ 名
年少組	１ クラス	教　諭　１ 名
年中組	１ クラス	教　諭　１ 名
年長組	２ クラス	教　諭　２ 名

講　師	３ 名	絵画・体育・英語
嘱託医	２ 名	小児科・歯科
薬剤師		
栄養士	１ 名	

《年間保育日程及び行事》

月	日　（曜日）	行　　事
2021年４月	８日（木）	保育始業　年長児へ進級 30 名・年中児へ進級 18 名
	１０日（土）	入園式　　新入園 11 名（年少児 10 名・年中児 1 名） 保護者等出席（保護者 22 名）
	３０日（金）	こどもの日祝会
５月	１０日（月）	交通安全（磯子警察・磯子区役所・洋光台交通安全母と父の会協力）
	１４日（金）	遠足　於：野毛山動物園　コロナのため中止
		個人面談　コロナのため中止
６月	４日（金）	尿検診（短大　渡邊先生）
	７日（月）	歯科検診
	９日（水）	花の日集会（花を持参しての慰問は中止）
	１０日（木）	内科検診
	14 日(月)･15 日(火)	保育参観
	２５日（金）	親子食事会（給食の試食）（19 組）
７月	５日（月）	個人面談（希望者）（年少組 5 名・年中組 11 名）
	６日（火）	個人面談（希望者）（年長組 11 名）
	７日（水）	七夕まつり集会
		年中組懇談会　中止
		年長組懇談会　中止
	１６日（金）	１学期保育終了　夏休み《7 月 17 日(土)～8 月 31 日(火)》
	19 日(月)･20 日(火)	年少組・年中組　夏期保育
	20 日(火)･21 日(水)	年長組　夏期保育
	２６日（月）	卒園生同窓会（小学 1 年生、6 年生のみ　参加児童 54 名）

月	日　（曜日）	行　　事
９月	１日（水）	2 学期保育開始
１０月	９日（土）	運動会（於:短大グラウンド）（縮小）（保護者他 232 名参加）
	１５日（金）	2022 年度入園希望者説明見学会 （9 名　内 3 年保育希望 7 名）
		2022 年度募集要項配布
	２０日（水）	さつまいも掘り（年長組）
１１月	１日（月）	2022 年度入園受付及び入園面接 （3 年保育 11 名･2 年保育 0 名）
	１２日（金）	感謝祭　二部分散 （保護者　満 3 歳・年少・年中組 95 名、年長組 85 名）
	１５日（月）	歯科検診
	１７日（水）	一日動物村　（於：附属幼稚園々庭） 午前：園児対象　　午後：地域の幼児も参加
	２２日（月）	保護者個人面談（希望者） （満 3 歳 1 名・年少組 3 名・年中組 7 名）
	２４日（水）	洋光台消防署による避難訓練
	２５日（木）	保護者個人面談（希望者）年長組 9 名
１２月	１５日（水）	クリスマス礼拝・祝会（保護者他参加 155 名　於:短大講堂）
	１７日（金）	クリスマスパーティー
	２２日（水）	人形劇観劇会（保護者他参加 108 名）
		２学期保育終了 冬休み《12 月 23 日(木)～2022 年 1 月 10 日(月)》
2022 年１月	１１日（火）	３学期保育開始
	１３日（木）	横浜女子短期大学２学年「保育内容研究発表会」 年長組参加中止　　於：横浜女子短期大学講堂
	１９日（水）	もちつき　中止
	２６日（水）	横浜ＤｅＮＡ　ふれあい野球訪問　中止
２月	３日（木）	節分　豆まき
	１８日（金）	親子の集い　園児のみ参加（保護者参加中止）
		年中組保護者懇談会　中止
		年長組保護者懇談会　中止
	21 日(月)･22 日(火)	保護者個人面談（希望者） （満 3 歳 1 名・年少組 5 名・年中組 5 名）
	25 日(金)･28 日(月)	保護者個人面談（希望者）　年長組 3 名
３月	１日（火）	園生活のスライド映写会 （父母は中止し園児は誕生会に観る）
	３日（木）	ひなまつり集会（感染予防のため縮小して実施）
	９日（水）	年長組お別れ遠足（新江ノ島水族館を変更し野毛山動物園）
	１１日（金）	お別れ会（感染予防のため縮小）
	１６日（水）	卒園式（卒園 29 名） 保護者出席（父母 57 名・祖父母 1 名）（縮小）
	１８日（金）	３学期保育終了

《毎月の行事》

1）身体測定　　６月・９月・１月
2）避難訓練　　第４週（月曜日）
3）誕 生 会　　第４週（水曜日）

《特別指導》

1）英語指導　（年中・年長組）　　毎週火曜日　アンネッカ・長尾　講師
2）絵画指導　（満３歳・年少・年中・年長組）　毎週木曜日　狩野　香　講師
3）体育指導　（年中・年長組）　　毎週金曜日　梅澤　勇人　講師
（バディー体育教室）

《その他の活動》

・ふたばクラス（未就園児のための親子クラス）
前期　全１６回（４月～１０月）　後期　全１３回（１１月～３月）※後期から母子分離
・のびのびクラス（１４：００～１８：００、水曜日は１１：３０～１８：００）
長期休み中の預かり保育は教育時間から１８：００で仕事を持つ保護者の園児のみ
・父母の会の活動
総会開催　年２回（感染予防のため書面評決）
コーラス・運動を通しての親睦・健康作り（ストレッチ）　感染予防のため中止

《横浜女子短期大学実習生受入》

１学年	半日実習	５月１７日～　５月３１日		計　７５名
〃	１０月実習	１０月　４日～１０月１５日	（１０日間）	４名
２学年	６月実習	６月　７日～　６月２５日	（１５日間）	４名
〃	２月追加実習	２０２２年２月８日～３月２日	（１５日間）	３名

《職員研修》

	４月２８日	磯子区幼稚園新任歓迎会・全体研修会	３名
	６月１５日	幼保小園長・校長会	１名
	６月２１日	幼保小担当者交流会	１名
	１０月１８日	幼保小担当者交流会	１名
	１０月２５日	学内研究発表会	７名
	１１月　９日	幼保小連携研修会	中止
２０２２年	１月１１日	磯子区幼稚園全体研修会（かかし座）	５名
	１月２２日	横浜市幼稚園教育研究大会（リモート参加）	７名
	１月３１日	幼保小園長・校長会	中止
	２月１４日	幼保小実行委員会	１名

《磯子区園長会》

４月１５日、５月２６日、６月２２日、９月１３日、１１月２５日、１２月１３日
（１月２月３月はコロナウイルスの感染拡大のため休止）

《大学行事協力》

７月１６日	１学年半日実習オリエンテーション	１名
１１月１６日	実習園懇談会	１名

《ドキュメンテーション勉強会》

６月１０日、７月８日、８月２６日、９月２４日、１１月２９日、１月２０日
（１０月２５日　学内研究発表会参加）

《施設整備事業》

園庭大型遊具入れ替え工事　　８月２５日～２７日　完了

《磯子区研究委員会》

横浜市幼稚園協会磯子支部として区内１１園の園から各１名の委員を選出し、年間約６回～１０回の研究委員会を開催している。保育に関する専門的で身近な研究をはじめ、職員の資質向上を目的とした磯子区全体の研修会を計画・実行することを主な活動としている。

３年に１回、毎年１月に開催される横浜市幼稚園教育研究大会において、研究の成果を発表し横浜市の幼児教育の水準を引き上げるための保育技術を磨く場となっている。

２０２１年度は緊急事態宣言や感染拡大のため活動は中止。

《永年勤続表彰》

２０２１年度　該当者なし

《よこはまのこども編集委員会》

第１回	５月１７日	１名
第２回	６月１０日	１名
第３回	７月　６日	１名

コロナ禍での保育も２年目になり、引き続き感染症対策に努め、保護者にも感染防止の協力を得ての一年間となる。

２０２１年度の在籍園児数は５９名でスタートし、年度末の３月時点で７０名となる。ここ数年、園児数の減少が続くなか、園児確保対策の一環として前年度から準備を進め、ホームページなどで周知してきた「満３歳児保育」を７月からスタートさせた。従来は満３歳になった翌年度の４月に３歳児として入園してきたが、３歳を迎えた次の月から入園可能とした制度が満３歳児保育である。前年度の説明会でも未就園児の保護者の関心は高く、２０２１年７月の２名を皮切りに翌１月までに９名が満３歳児として入園した。

満３歳児保育では、基本的生活習慣の部分を中心に家庭と連携しながら成長を導いていく。主に生活の中心は遊びであるが、集団生活のルールを覚え、毎日の礼拝を通して３歳児なりに祈ることや感謝、思いやりの心が培われている。また、鉄棒などの固定遊具で遊んだり、ハサミやのり、粘土、クレヨン、折り紙などを使う経験をすることで、個人差はあるが情緒面や社会性の発達などの成長もみられた。

随時入園となるが、入園当初１週間は半日保育で慣れてもらった後に一日保育に移行する。年齢的な成長や個人差にも十分配慮しながら、行事等にも満３歳の子どもたちが無理なく楽しみながら参加できるよう内容の見直し等も行った。保護者からも好評で入園させて良かったという声をいただいた。２０１９年度より国の政策として開始された幼児教育保育無償化により、満３歳児も無償化の対象となること、新型コロナウイルス感染症の影響により公園などでの友達づくりも難しい状況にあることなどを背景に、保護者ニーズとも合致して、満３歳児保育が僅かではあるが、園児を増やす要素となった。今後もポスターやホームページを最大限に活用して未就園児の保護者に「ふたばクラス」と共にアピールをしていきたい。

新型コロナの影響をみると、１学期はまん延防止等重点措置で親子遠足を中止とする。８月２日からの緊急事態宣言発令に伴い、２月期に向けて昼食時の対応として急遽パーテーションを購入し感染防止対策の強化を図る。その後解除されるが、行事についてはプログラムの縮小や人数制限、学年を分けて開催するなどできる限りの工夫をし、２年振りに短大講堂でのクリスマス礼拝も実施した。また、１学期に中止した親子遠足を惜しむ声があり、親子で楽しめる企画として父母の会にも協力していただき、人形劇団を招いて２学期最終日に「オオカミと７匹のこやぎ」をホールで上演し大変喜ばれた。

３学期は感染者の急増による緊急事態宣言が発令され、１月～３月は保育園・幼稚園・学校での感染も拡大し、磯子区内の園でも休園が相次ぐ中、当園では保護者３名の感染報告と濃厚接触者となった園児の自宅待機はあったが、園児・職員の感染者は今のところ出ていない。保護者と職員一人ひとりの協力や意識の高さに感謝している。

園児確保の面で反省点として指摘されていた地域へのアピール不足を解消するため、１１月の一日動物村をポスターやホームページで周知したことで、前年に比べ来園者が２倍以上に増え賑わった。１２月には未就園児の親子を対象に附属幼稚園の施設を開放するイベントを、「キッズパークふぞく」と名付けて初めて実施し、園の存在をアピールした。このイベントには３０組の親子が来園して園庭や保育室で様々な遊具で楽しんだ。その後、３月に開催した「ふたばクラス体験会」にも参加してもらい、２０２２年度の「ふたばクラス」の入会につなげることができた。

今後も、人間形成の上で最も大切な幼児期の一人ひとりに寄り添い導いていくことのできる人材を育成するべく、職員の資質向上に努め、より多くの子ども達が入園を希望する幼稚園となるよう努力を続けていく。

《保育センター》

2021年度　白峰学園横浜女子短期大学保育センター研修事業実績

受講状況		定員(a)	日数(b)	延定員(c)	申込者数 (d)					申込者数の定員倍率(d/a)	延出席者(e)	定員に対する出席率(e/c)
研修番号	研修名				公立	%	私立	%	計	倍		%
2	0歳児保育研修	150	2	300	47	9	489	91	536	3.6	335	112
3	1歳児保育研修	150	2	300	62	9	613	91	675	4.5	338	113
4	2歳児保育研修	150	2	300	64	11	501	89	565	3.8	325	108
5	3歳児保育研修	150	2	300	57	11	467	89	524	3.5	325	108
6	4･5歳児保育研修	150	2	300	68	13	473	87	541	3.6	310	103
8	中堅保育士研修	150	3	450	15	5	283	95	298	2.0	504	112
9-1	乳幼児救急法研修①	20	2	40	9	12	65	88	74	3.7	55	138
9-1	乳幼児救急法研修②	20	2	40	9	16	48	84	57	2.9	58	145
9-1	乳幼児救急法研修③	20	2	40	7	16	38	84	45	2.3	56	140
9-1	乳幼児救急法研修④	20	2	40	3	8	33	92	36	1.8	56	140
10	主任保育士講座	150	4	600	19	8	209	92	228	1.5	657	110
11	園長・施設長講座	150	3	450	15	9	150	91	165	1.1	440	98
13	障害児保育講座	100	5	500	26	5	448	95	474	4.7	514	103
14	子育て支援専門講座	150	5	750	23	7	330	93	353	2.4	833	111
16	カウンセリングを活かした保護者対応講座	20	5	100	19	7	235	93	254	12.7	101	101
17-1	保育実践(健康)	80	1	80	3	3	83	97	86	1.1	75	94
17-2	保育実践(人間関係)	80	1	80	12	10	104	90	116	1.5	92	115
17-3	保育実践(環境)	80	1	80	18	14	111	86	129	1.6	94	118
17-4	保育実践(言葉)	80	1	80	14	11	112	89	126	1.6	93	116
17-5	保育実践(表現)	80	1	80	12	12	87	88	99	1.2	91	114
17-6	保育実践(保育内容総論)	80	1	80	6	7	79	93	85	1.1	74	93
18-1	キャリアアップ研修 保健衛生・安全対策	150	5	750	8	2	404	98	412	2.7	826	110
18-2	キャリアアップ研修 食育・アレルギー対応	150	2	300	15	3	415	97	430	2.9	332	111
18-3	キャリアアップ研修 マネジメント	150	1	150	13	3	360	97	373	2.5	160	107
19	保育士の専門性向上のための専門職講座	20	4	80	9	31	20	69	29	1.5	87	109
20	乳児保育講座	150	1	150	29	4	626	96	655	4.4	162	108
21	幼児教育講座	150	1	150	18	4	445	96	463	3.1	156	104
計		2,800	63	6,570	600	8	7,228	92	7,828	2.8	7,149	109

《研修事業》

２０２１年度も、その前年度に引き続き、新型コロナウィルス感染症の影響を大きく受けた１年だったといえる。

しかしながら、前年度（２０２０年度）は、何の備えもない未知のコロナ禍での対応において、感染リスクの高いプログラム内容の研修が一律中止となり、また、ほとんどの研修が大人数の受講者数を抱え三密の避けられない状態だったこと、及びその受講者の昼食（飲食）のための対応・対策も困難だったことから、実施した全ての研修がＺＯＯＭでのオンラインの研修となり、ＺＯＯＭにまだ十分馴染んでいなかった受講者側の戸惑いも大きく感じられたのに対して、２０２１年度は、こうした前年度の予期せぬコロナ禍での一連の対応を振り返り検証しながら、なおも続くこととなったコロナ禍での研修実施において、いくつかの大きな調整・改善を図り、そこに一定の前進もみられることとなったものと思われる。

具体的には、２０２１年度は、受講者の要望も踏まえて、対面での研修実施を基本とし、感染リスクの高くなりがちな保育実践系の研修を座学中心の（五領域の）保育内容の研修に切り換え、また、受講者定員を大幅に絞り（収容定員８８８名の会場に１５０名の定員を上限とし）十分な間隔をとって座席を指定し、さらには、感染リスクの大きい会場内での飲食を避けるため、研修時間をすべて午後のみ（主として１３時～１６時までの３時間）に変更するなどの調整・変更・改善を行った。そのうえで、新型コロナウィルスの感染状況を注意深く見守りながら、対面での実施も決して無理はせず、必要に応じて随時ＺＯＯＭでのオンラインに切り替えての研修を実施することとした。

その結果として、２０２１年度は、当初の事業実施計画の通り、全６３回の研修を（どれも中止とすることはなく）すべて無事に実施することができた。ちなみに、全６３回の研修のうち、対面での実施が３７回（５９％）、オンラインでの実施が２６回（４１％）（つまり、対面での研修が約６割、オンラインでの研修が約４割）という結果だった。

研修全体においては、延べ定員数 6,570 名に対し、最終的な延べ出席者数は 7,149 名で、延べ定員に対する延べ出席者の割合（出席率）は約１０９％だった。

なお、（延べ参加者数 7,149 名における）所管別の「延参加者数」（及びその割合）は、神奈川県が「 2,750 人（３８．５％）」、横浜市が「 3,216 人（４５％）」、川崎市が「 468 人（６．５％）」、相模原市が「 453 人（６．３％）」、横須賀市が「 262 人（３．７％）」であった。

引き続き、今年度においても、２０２１年度の研修実施の方法等を踏まえ、対面での実施を基本としつつも、新型コロナウィルスの感染状況に応じて、必要ならば随時オンラインでの実施ができるよう、対面研修とオンライン研修の両方がいつでもできる体制を備えておくことが求められる。

３．財務の概要

(1)決算の概要

①貸借対照表関係

ア）貸借対照表の状況と経年比較

（千円）

	2021年度	2020年度	2019年度	2018年度	2017年度
固定資産	4,020,728	4,316,605	4,516,598	4,857,517	5,160,305
流動資産	71,885	117,885	185,205	95,537	121,333
資産の部合計	4,092,613	4,434,490	4,701,803	4,953,054	5,281,638
固定負債	2,504	3,084	3,099	3,743	3,508
流動負債	99,391	122,012	170,790	149,573	237,573
負債の部合計	101,895	125,096	173,889	153,316	241,081
基本金	6,533,323	6,500,605	6,419,738	6,387,470	6,348,155
繰越収支差額	△ 2,542,605	△ 2,191,211	△ 1,891,824	△ 1,587,732	△ 1,307,598
純資産の部合計	3,990,718	4,309,394	4,527,914	4,799,738	5,040,557
負債及び純資産の部合計	4,092,613	4,434,490	4,701,803	4,953,054	5,281,638

イ）財務比率の経年比較

（%）

	2021年度	2020年度	2019年度	2018年度	2017年度
運用資産余裕比率	243.1	303.7	317.0	328.0	313.7
流動比率	72.3	96.6	108.4	63.9	51.1
総負債比率	2.5	2.8	3.7	3.1	4.6
前受金保有率	89.9	116.6	126.3	66.6	53.9
基本金比率	99.9	99.9	99.7	99.7	99.5
積立率	40.7	48.8	55.8	62.1	69.8

②資金収支計算書関係

ア）資金収支計算書の状況と経年比較

（千円）

収入の部	2021年度	2020年度	2019年度	2018年度	2017年度
学生々徒等納付金収入	253,108	294,961	275,155	320,797	421,871
手数料収入	2,219	2,727	2,405	3,206	4,062
寄附金収入	2,593	2,909	10,678	3,290	3,532
補助金収入	51,685	83,051	52,148	84,505	101,739
資産売却収入	0	0	0	0	0
付随事業・収益事業収入	7,200	5,681	6,887	6,465	6,656
受取利息・配当金収入	17,603	17,624	17,663	17,939	17,998
雑収入	21,431	11,881	39,857	39,938	66,229
借入金等収入	0	0	0	0	0
前受金収入	76,693	99,382	131,648	111,422	132,065
その他の収入	256,882	208,458	327,386	295,366	115,068
資金収入調整勘定	△ 102,334	△ 133,608	△ 130,339	△ 153,355	△ 200,673
前年度繰越支払資金	115,925	166,289	74,247	71,182	102,355
収入の部合計	703,005	759,355	807,735	800,755	770,902

支出の部	2021年度	2020年度	2019年度	2018年度	2017年度
人件費支出	353,906	354,938	392,810	413,510	482,632
教育研究経費支出	162,266	118,202	123,034	125,296	134,428
管理経費支出	72,789	73,136	73,268	84,254	88,867
借入金等利息支出	0	0	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0	0	0
施設関係支出	34,804	66,036	32,058	22,712	13,720
設備関係支出	2,584	6,375	12,040	4,841	16,420
資産運用支出	994	994	994	994	994
その他の支出	18,510	32,568	27,817	84,247	31,215
資金支出調整勘定	△ 11,782	△ 8,819	△ 20,574	△ 9,346	△ 68,556
翌年度繰越支払資金	68,934	115,925	166,288	74,247	71,182
支出の部合計	703,005	759,355	807,735	800,755	770,902

イ）活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

（千円）

科目		2021年度	2020年度	2019年度	2018年度	2017年度
教育活動による資金収支						
	教育活動資金収入計	338,236	401,210	387,131	458,201	604,091
	教育活動資金支出計	588,960	546,276	589,114	623,060	705,928
	差引	△ 250,724	△ 145,066	△ 201,983	△ 164,859	△ 101,837
	調整勘定等	△ 23,183	△ 30,814	22,900	△ 57,698	△ 20,882
	教育活動資金収支差額	△ 273,907	△ 175,880	△ 179,083	△ 222,557	△ 122,719
施設整備等活動による資金収支						
	施設整備等活動資金収入計	245,404	180,000	293,000	235,000	100,000
	施設整備等活動資金支出計	38,382	73,405	45,091	28,547	31,134
	差引	207,022	106,595	247,909	206,453	68,866
	調整勘定等	0	0	0	0	0
	施設整備等活動資金収支差額	207,022	106,595	247,909	206,453	68,866
小　計（教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額）		△ 66,885	△ 69,285	68,826	△ 16,104	△ 53,853
その他の活動による資金収支						
	その他の活動資金収入計	27,120	27,165	30,758	28,153	32,279
	その他の活動資金支出計	7,226	8,244	7,543	8,985	9,598
	差引	19,894	18,921	23,215	19,168	22,681
	調整勘定等	0	0	0	0	0
	その他の活動資金収支差額	19,894	18,921	23,215	19,168	22,681
支払資金の増減額（小計＋その他の活動資金収支差額）		△ 46,991	△ 50,364	92,041	3,064	△ 31,172
前年度繰越支払資金		115,925	166,289	74,247	71,182	102,355
翌年度繰越支払資金		68,934	115,925	166,288	74,246	71,183

ウ）財務比率の状況と経年比較

比　　率	2021年度	2020年度	2019年度	2018年度	2017年度
教育活動資金収支差額比率	△ 81.0	△ 43.8	△ 46.3	△ 48.6	△ 20.3

③事業活動収支計算書関係

ア）事業活動収支計算書の状況と経年比較

（千円）

	科　　目	2021年度	2020年度	2019年度	2018年度	2017年度
教育活動収支	事業活動収入の部					
	学生生徒等納付金	253,108	294,961	275,155	320,797	421,871
	手数料	2,219	2,727	2,405	3,206	4,062
	寄付金	2,593	2,909	10,678	3,290	3,532
	経常費等補助金	51,685	83,051	52,148	84,505	101,739
	付随事業収入	7,200	5,681	6,887	6,465	6,657
	雑収入	22,011	11,895	40,501	39,938	66,229
	教育活動収入　計	338,816	401,224	387,774	458,201	604,090
	事業活動支出の部					
	人件費	353,906	354,938	392,810	413,745	482,764
	教育研究経費	234,436	197,675	201,693	208,734	220,042
	管理経費	85,817	83,205	82,483	93,966	98,857
	徴収不能額等	450	375	0	0	535
	教育活動支出　計	674,609	636,193	676,986	716,445	802,198
	教育活動収支差額	△ 335,793	△ 234,969	△ 289,212	△ 258,244	△ 198,108
教育活動外収支	事業活動収入の部					
	受取利息・配当金	17,603	17,624	17,663	17,939	17,998
	その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
	教育活動外収入　計	17,603	17,624	17,663	17,939	17,998
	事業活動外支出の部					
	借入金利息	0	0	0	0	0
	その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
	教育活動外支出　計	0	0	0	0	0
	教育活動外収支差額	17,603	17,624	17,663	17,939	17,998
経常収支差額		△ 318,190	△ 217,345	△ 271,549	△ 240,305	△ 180,110
特別収支	事業活動収入の部					
	資産売却差額	0	0	0	0	0
	その他の特別収入	0	0	0	0	0
	特別収入　計	0	0	0	0	0
	事業活動支出の部					
	資産処分差額	486	1,174	277	514	528
	その他の特別支出	0	0	0	0	0
	特別支出　計	486	1,174	277	514	528
	特別収支差額	△ 486	△ 1,174	△ 277	△ 514	△ 528
基本金組入前当年度収支差額		△ 318,676	△ 218,519	△ 271,826	△ 240,819	△ 180,638
基本金組入額合計		△ 32,718	△ 80,867	△ 32,267	△ 39,316	△ 22,138
当年度収支差額		△ 351,394	△ 299,386	△ 304,093	△ 280,135	△ 202,776
前年度繰越収支差額		△ 2,191,211	△ 1,891,825	△ 1,587,732	△ 1,307,597	△ 1,108,821
基本金取崩額		0	0	0	0	4,000
翌年度繰越収支差額		△ 2,542,605	△ 2,191,211	△ 1,891,825	△ 1,587,732	△ 1,307,597

（参考）

事業活動収入計	356,419	418,848	405,437	476,140	622,088
事業活動支出計	675,095	637,367	677,263	716,959	802,726

イ）財務比率の経年比較

（%）

比　　率	2021年度	2020年度	2019年度	2018年度	2017年度
人件費比率	99.3	84.7	96.9	86.9	77.6
教育研究経費比率	65.8	47.2	49.7	43.8	35.4
管理経費比率	24.1	19.9	20.3	19.7	15.9
事業活動収支差額比率	△ 89.4	△52.2	△67.0	△50.6	△29.0
学生々徒等納付金比率	71.0	70.4	67.9	67.4	67.8
経常収支差額比率	△ 89.3	△51.9	△67.0	△50.5	△29.0

(2)その他

①有価証券の状況

（円）

	当年度(2022年3月31日)		
種　　類	貸借対照表計上額	時価	差異
時価が貸借対照表計上額を超えるもの	1,098,422,616	1,175,430,000	77,007,384
（うち満期保有目的の債券）	(1,098,422,616)	(1,175,430,000)	(77,007,384)
時価が貸借対照表計上額を超えないもの	0	0	0
（うち満期保有目的の債券）	(0)	(0)	(0)
合　　計	1,098,422,616	1,175,430,000	77,007,384
（うち満期保有目的の債券）	(1,098,422,616)	(1,175,430,000)	(77,007,384)

②借入金の状況

・該当なし

③学校債の状況

・該当なし

④寄付金の状況

・特定寄附金　2,472,500 円・一般寄付金　120,000 円

⑤補助金の状況

・国庫補助金 11,607,700 円・地方公共団体補助金 20,555,397 円・県市特別補助金 19,522,000 円

⑥収益事業の状況

・補助活動収入　3,014,750 円・免許更新講習料収入 4,185,000 円

⑦関連当事者等との取引の状況

ア）関連当事者

属性	役員、法人等の名称	住　所	事業の内容又は職業	決議兼の所有割合	関係内容		取引の内容	取引金額（千円）	勘定科目	期末残高（千円）
					役員の兼務	事実上の関係				
関係法人	社会福祉法人白峰会	神奈川県横浜市港南区	保育事業	—	兼任1名	役員の兼務	白峰保育園新設資金無利息貸与	30,000	長期貸付	25,500

イ）出資会社

・該当なし

⑧学校法人間財務取引

・該当なし

(3)経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策

2021 年度の学生募集による 2022 年度の横浜女子短期大学入学者数は 63 名にとどまり、在学生数も総定員 400 名に対し 4 割に満たないところまで落ち込んでいる。

学生生徒等納付金収入の大幅な減少で、白峰学園全体（短期大学部門と附属幼稚園部門）の 2022 年度事業活動収支差額（基本金組入前）は、予算ベースで 3 億 4,400 万円の支出超過となる見通し。短大学生数の激減が響き、支出超過額は前年度決算比でさらに 2,500 万円拡大する。

こうした厳しい状況を受け白峰学園では、横浜女子短期大学の入学金を 10 万円引き下げ 25 万円とし、2023 年度入学生（2022 年度実施の学生募集）から適用する。併せて入学手続き時に納入する 1 年次前期の学費についても、入学金以外は 3 月末までに納入すれば可とし、合格者の経済的負担が一時期に集中しないよう学則を変更した。学費の面では、志願者増につながる要素になると期待している。

学生数の減少が続く現在の難局打開の方策を検討するため、昨年 8 月には理事・監事と評議員の合同会議を開催した。会議で出された意見は「学費の値下げ」と「男女共学への移行」が大勢を占めた。このうち学費に関して、入学年度の学費負担を軽減することによる修学支援と志願者の呼び込みを図る観点から、その後 12 月に開いた評議員会と理事会で入学金の減額などに踏み切ることを決定した。

まず実施するべきは志願者を呼び込み、激減した学生数を回復させ学生生徒等納付金収入の増加により逼迫した財務を改善の軌道に乗せることである。その上で 8 月の合同会議でやはり意見の大勢であった男女共学に移行するための施設改修、あるいは将来的に新たな教育事業（8 月の合同会議では夜間開講コースの設置等の意見が出されていた）を展開するための予算を確保していく。

また、入学金引き下げ後の実際の入学者数と事業活動収支をさらに精査した上で、必要であれば入学定員を見直し、適正定員を検討する。適正な定員がどの程度であるかは、2022 年度内に固める方針である。

2022 年度に実施する学生募集（2023 年度入学生募集）では、入試方法の一部修正も行う。志願者の減少が顕著な総合型選抜（旧 AO 入試）では、3 種類（保育内容体験型、小論文型、自己アピール型）の試験方法を設け、希望者は指定校型推薦入試と同様に事前面談（試験当日の面接免除）も可能とし、リモート面接希望者についても相談に応じる。志願者が自分に合った方法で受験できるよう前年度よりも更にきめ細かく対応していく。

また、学校推薦入試の中に「同窓生ファミリー入試」を新設する。姻戚関係も含め 4 親等以内の親族が本学の卒業生である受験生を対象にした入学試験で、成績優秀者については入学金免除の特待生とする。

2019 年度には志願者増の効果を上げた指定校推薦受験生の検定料免除と特待生の入学金免除、神奈川県・東京都以外の高校を対象にした地域特別型推薦入試合格者の入学金免除も引き続き実施する。これまで実施してきたオープンキャンパス、高校訪問、志願者・父母等向けの入試相談会や高校の進学指導担当者を招いての説明・相談会の開催、各種進学説明会への担当者派遣、キャンパス見学の随時受け付け等の取り組みも、志願者を呼び込む基本施策として必要に応じて内容を修正しながら継続して展開していく。

教学面では、前年度と同様に感染症対策との両立を図りながら最大限の効果を上げるべく教育活動に取り組んでいく。新型コロナウイルス感染症を巡っては予断を許さない状況が続いている

が、社会全体を見ると、制限を緩和できるものは緩和し、徐々に以前の状態に戻していく方向に動いている。本学でも 2022 年度は、感染症対策について工夫を図りながら、対面授業を全面的に復活させ実施していく予定。行事等については、依然として制約が必要となり、開催を見送らざるを得ないものも出てくると思われるが、可能な限りの形で再開できるよう努力していく。

併せて短期大学における教育研究活動や研修事業を円滑に推進できる環境を整え安全性を維持するため、施設設備の補修・改修・更新工事は保守点検結果と財務状況を踏まえた上で順次進める。2022 年度は本館 1 階来賓・教職員トイレ排水管改修工事、講堂東側の屋上防水改修工事、電話交換機の更新工事、ML 教室の映像系機材改修工事、講堂舞台の吊物用ロープ交換などを行う。

横浜女子短期大学は、2023 年度に大学・短期大学基準協会（学校教育法に基づく認証評価機関）による認証評価の審査を受ける予定である。7 年毎に行われているもので、前回は 2016 年度に受審し教学、財務、ガバナンスなどについて、それぞれ定められた基準を満たしているとの評価を受け適格と認定された。今回の 2023 年度の認証評価は、その後の本学の状況について、とりわけ直近の 2022 年度について重点的に評価される。このため 4 月から始まった 2022 年度は特に重要な一年間であるとの共通認識を全教職員が持って、それぞれの業務を推進していく。

附属幼稚園の園児数も減少傾向が続いている。2022 年度の新入園児数は 16 名（満 3 歳児保育からの進級園児含む）にとどまった。4 月は在園児数 47 名のスタートとなり、前年同時期に比べ 12 名減少した。

こうした中で入園希望者の増加を図るための方策の一環として、昨年 12 月から未就園児と保護者を対象に園舎のホールや園庭を開放し、安全に楽しく遊べる空間の提供を「キッズパークふぞく」の名称で開始した。附属幼稚園の存在をアピールするとともに地域貢献にも繋げるのが狙いで、初回は 30 組の幼児と保護者が参加した。4 月にも 2 回目を実施し 16 組の幼児と保護者の参加を得た。今後は「キッズパークふぞく」で、地域貢献をより具体化するため子育て支援コーナーを設けることも検討している。また、通常の園庭解放も毎週水曜日午後に行っている。

2021 年度から開始した満 3 歳児保育（満 3 歳になった翌月から入園可）、在園児（年中・年長）と地域の小学生（低学年）を対象にした課外活動の体操教室は、それぞれ 2022 年度も継続して実施している。満 3 歳児保育は問い合わせも徐々に増え、体操教室も好評を得ている。また、預かり保育では、仕事を持つ母親を対象に月極定額料金を新設するなど制度を更に充実させ、保護者ニーズに対応している。

白峰学園では、学校教育法に基づく認証評価などに適切に対応しながら、設置校である横浜女子短期大学と附属幼稚園の諸活動を支えるため、良好な教育環境と財務基盤を整備する努力を続け、本学園の設立目的である児童福祉と幼児教育への貢献を具現化していく考えである。